

TAKARA®

第52期 中間事業報告書

2005年4月1日～2005年9月30日



- 株主の皆様へ／トップインタビュー
- 新商品情報・おもちゃ四方山話
- セグメント別概況／連結主要財務データ
- 連結財務諸表
- 単体財務諸表／トピックス
- 株式の状況
- 会社概要・株主メモ

TAKARA®





代表取締役社長
奥出 信行

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社は昨年度、大幅な赤字を計上し、株主の皆様には、大変ご迷惑をおかけ致しました。1月から経営改革委員会を発足させ、2006年3月期の業績黒字化と財務体質の改善を最優先課題として、全社一丸となって経営の改革に取り組んでまいりました。

これまで進めてまいりました「玩具を中核としたライフエンタテインメント企業」の事業領域を見直し、玩具と玩具周辺事業へと経営資源を集中するとともに、グループ経営においては構造改革とグループ企業の再編を図り、一部子会社の譲渡、売却など、再編を着実に進めております。

単体においては、販売管理費の引下げ、固定費の削減、サプライチェーン・マネジメントの導入等による損益分岐点の引下げに取り組みました。結果として、当中間期は、売上、営業損益、経常損益ともに計画以上の改善となりました。また、売上高を確保しながら在庫削減にも取り組みました。玩具業界を取り巻く環境は厳しく、決して楽観視できる状況ではございませんが、社内の経営改善は着実に進み、予定以上の成果を上げていると認識しております。

また、来年3月には、本年9月の臨時株主総会で皆様にご承認いただきました、新生タカラトミーが発足致します。合併に向けてシナジーを最大に活かすべく両社での準備は具体的に進み、手応えも感じております。

株主の皆様のご期待に応えられる企業を目指しこれからも邁進致しますので、どうぞ今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新生タカラトミーとしての新たなスタートに向けた取り組みや今後のビジョンについて、佐藤会長にお話を伺いました。



代表取締役会長 佐藤 慶太

トミーとの合併や新たな飛躍へ向けた土壌創りが着実に仕上がってまいりました。

この度、株式会社タカラと株式会社トミーは、互いの歴史や企業風土を尊重し合いながら、玩具市場No.1を目指し合併することについて合併契約を締結致しました。実績を積み上げてきた両社が、その中軸事業である玩具事業を統合することで、大幅に収益力が高まり、更なる効率化が図れると考えております。

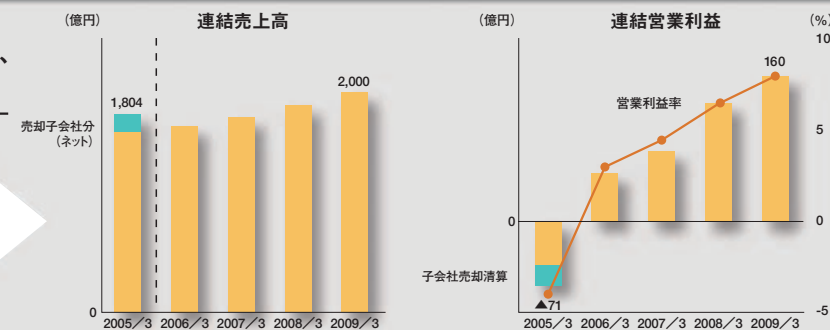
2006年3月の合併に向けて現在、T2ステアリングコミッティという名の会議の場を持ち、様々な打合せを重ねておりますが、ようやく具体的な戦略や目標が見えてまいりました。コストの削減から、効率的かつ効果的な体制構築まで、新生タカラトミーとしての最適な組織や運営のあり方を創出してまいります。

新生タカラトミーは、ナンバーワンだからこそ成しえることや持てる力を、最大限発揮してまいります。

トミーは約80年、当社は約50年の歴史を持っており、それぞれが成功体験、失敗体験を積み重ねてまいりました。その体験を継承して生まれる新生タカラトミーは、新たな可能性に満ちあふれています。日本の玩具市場は世界市場の中で第2位の規模を持っているといわれておりますが、その日本の玩具市場においてNo.1になるということは、圧倒的な競争力を持って、よりよいコンテンツを生みだし続ける土壌が創れるということです。このNo.1だからこそその力を最大限発揮し、2009年3月期には売上高2,000億円、営業利益率8%を達成するという経営目標を掲げました。

新生タカラトミーの売上高、営業利益目標

3年後、売上2,000億円、利益率8%を実現します



まず足元を固めます。

昨年度の大幅な赤字発表後、社長の奥出を陣頭に経営改革委員会を組織し、利益重視の経営方針の下、財務体質の改善、経営改革に取り組んでまいりました。全社一丸となって改善に努めてきた結果、上期の業績は営業損益、経常損益ともに、目標を上回る実績を上げることができました。販売費及び一般管理費など固定費の節減や在庫の削減など、体質改善の施策が徐々に効果を現し始めており、良いかたちで通期を折り返すことができました。

そういった中で、タカラグループにおいては、玩具を中核とした事業とコンテンツ創造に経営資源を集中させ、グループの再編とスリム化に取り組んでおります。玩具のドメインからはずれるグループ会社については、各グループ会社とコミュニケーションを徹底した上で、様々な手法で連結対象外とする方策を進めております。それぞれの企業ごとに、新たな出資パートナーの理解と協力を得て、得意領域に特化した事業再構築ができるように努めております。財務改善、キャッシュ・フローの改善はもとより、双方の企業価値向上の可能性を追求しております。現時点では、全てが決定している状況ではありませんが、2006年2月末までにあるべき姿に着地させる計画に沿って、おおむね順調に進んでおります。

3年以内に190億円の統合コストシナジー実現を目指します。



合併に向けての統合効果を追求します。

8月24日のタカラトミー基本方針発表会の中で、タカラトミーの統合シナジーとして、今年度を含め2009年3月期までに、コストシナジー190億円を実現することを掲げました。統合シナジーの早期創出を果たし、合併新会社の更なる飛躍を目指すべく9つの事業領域のタスクフォース(分科会)を作り、タカラ、トミー両社の部門や子会社が連携して具体的な内容を詰めております。タスクフォースに参加している役員がそれぞれ目標の数字をコミットメントできるような詳細まで固まりつつあります。必ずしも楽な工程ではなく、難易度はとても高いのですが、こちらも順調に進んでおります。

具体例をあげますと、「生産・物流」につきましては、合併に先立ち、すでに両社の子会社、部門の機能統合を行い、生産・物流を最適化するサプライチェーン・マネジメント(SCM)を導入するなど、合理化を進めております。同様に、「営業・流通」、「広告・宣伝」などそれぞれの分野でのシナジーについても具体的な目標や課題を明確化し、実現に向けて動き始めております。

高収益企業としての組織作りを図ります。

一方で、株主の皆様、投資家の皆様に、よりご期待いただけるような成長性の高い高収益企業の実現のための組織作りにも取り組んでまいります。

①ヒット商品の創造から育成～収益重視型事業ユニットモデル

本社機能は徹底してスリム化し、コンテンツを創造し育てることによって、真の高収益を実現する組織作りを行います。運営の基本は事業ユニットごとに行い、個別の事業部を独立採算でマネジメントすることにより、ヒット商品創造から開発、販売、ライセンスアウト、在庫管理、著作権元との交渉にいたるまで全て一貫し、収益を上げていくモデルを構築してまいります。

事業ユニットが全体を完結型で行うことによって事業部ごとや、社員一人一人も目的や目標を明確にすることができる、

働きやすい環境作りを実現してまいります。

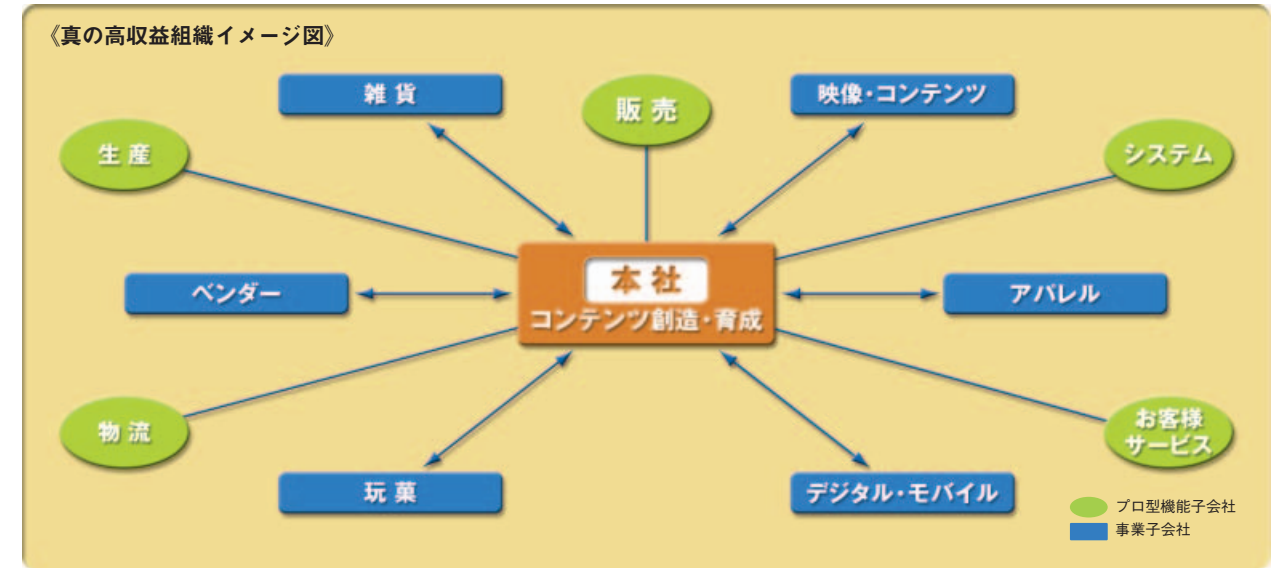
評価、報酬制度についても、目標と成果に応じて連動する仕組みを作り、社員のモチベーションを高める工夫をしてまいります。

②プロ型機能子会社

本を支えるグループ会社として、事業ユニットをあらゆる面でサポートしていくプロ型機能集団が、それぞれの役割を果たします。生産、物流、システム、販売、お客様サービス機能など、これらのサポート機能子会社は効率性とサービスクオリティの向上を図ります。

③事業シナジーを通じ、コンテンツ育成を図る事業子会社

本社の創り出すコンテンツをベンダー、玩具、アパレルなど事業領域を明確化し事業の相乗効果を上げながら、ともにコンテンツ育成を図ります。コンテンツのトータル収益向上を図ることにより積極的な事業展開を行います。



今後の展望

前述した組織を作り、良質なおもちゃやコンテンツを世界へ発信し、成長性のあるビジネスモデルを確立してまいります。日本のキャラクターやアニメーション、コンテンツは世界で飛躍的に力をつけつつあり、日本で育てたおもちゃやコンテンツを世界で展開していくことは大きな可能性があると考えております。

良質なおもちゃやコンテンツを創ろうということにおいては、トミーもタカラも比類ない強い意志を持っていますので、それらを通じて必ず世界中の子どもたちに夢と感動を提供できる企業を実現してまいります。

どうぞ、株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



新商品情報



「魔弾戦記リュウケンドー」

タカラ、映画制作の松竹、総合商社の三井物産、CG制作の白組が各社のノウハウを結集して製作した、等身大ヒーローの王道を追

求した特撮マシンアクションヒーロードラマ「魔弾戦記リュウケンドー」が2006年1月から毎週日曜日テレビ東京系にて放映をスタートします。

現代では珍しくなった義理人情あふれる町「あけぼの町」を舞台に、人々を苦しめる魔物から、あけぼの町民を守るために戦う正義の味方「リュウケンドー」の姿を子どもたちにもわかりやすく描きます。明るく、楽しく、ストレートに楽しめるようにストーリーを創り、最新のデジタル技術を駆使してテレビシリーズの映像化をしました。等身大のヒーロー、ヒーローの持つ武器、フルCGで描かれたアニマル（獣王）、個性豊かな魔物たちなど、魅力的な人物やメカ、敵キャラクターが迫力の映像の中に登場します。不思議な力を秘めた“鍵”「魔弾キー」によって、ヒーローが成長、パワーアップするなど、子どもたちが憧れる遊びの要素をふんだんに取り入れています。

タカラは映像と連動した玩具等を展開します。

©「魔弾戦記リュウケンドー」製作委員会/テレビ愛知・ウィーヴ ©TAKARA CO.,LTD.2005



おもちゃ
四方山話



「人生ゲームM&A」

今年発売37年目を迎える盤ゲームのロングセラー商品「人生ゲーム」のシリーズ第37作目として、会社を起業し、経営者となったプレイヤーがM&A（「Mergers and Acquisitions」/企業の合併・買収）などを経て、会社の企業価値を高めていく人生ゲーム「人生ゲーム M&A(エムアンドエー)」(希望小売価格3,780円/税込)が登場しました。

経済教育元年といわれる今年、人材の大切さ、企業価値をいかに高めるかということ話し合いながらプレイする体験学習イベント「人生ゲームM&A父子大会」を株式会社ライブドアにて開催するなど、“お父さんの子育て”や、未来を担う子どもたちに向けて、起業や株、お金の関わり方などについて、遊びながら学ばせかけを提案しています。



米「TIME」誌 Best Inventions of 2005
世界で最も優れた発明品

「ウォーカービッツ」

「ウォーカービッツ」(希望小売価格：各1,344円)は、甲羅(こうら)をつつくとノコノコ歩く小さな亀ロボットです。世界最小クラス(約5cm)の本体に、①歩く(歩行モード)②教えたリズムを真似して歩く(リズムモード)③走る(レースモード)④電子音を奏でる(シンクモード)の4モードを内蔵しています。また本商品は、11月にアメリカの雑誌「TIME」が選ぶ“Best Inventions of 2005”(2005年世界で最も優れた発明品)のロボットカテゴリーにおいて、優秀発明品に選ばれました。

セグメント別概況

玩具事業

売上高 370億4千6百万円 (前年同期比12.9%増)
 営業損失 12億4千4百万円 (前年同期比69.2%営業損失の減)
 国内市場ではカードゲーム「デュエル・マスターズ」が引き続き好調を維持し、「バトルビーマン」を中心とした海外売上が計画を上回りましたが、生活遊具や女児玩具は計画数値には届きませんでした。また新たにトイズユニオン(株)の売上が加わり前年同期より増加しました。(株)ブロッコリー、(株)ジャパド等の連結子会社は利益計画を下回りましたが、当社の販売費及び一般管理費の削減により営業損失は前年同期より大幅に減少しました。



新撃バトル「騎刃王(キバオウ)」

家電・電熱事業

売上高 30億9百万円 (前年同期比10.8%減)
 営業損失 4億9千5百万円 (前年同期比0.1%営業損失の減)
 家電・電熱事業ではIT関連製品の売上が計画を上回りましたが、家電部門での売上が計画を下回り前年同期より減少しました。経費削減により営業損失は前年同期と同程度となりました。



±0「加湿器」
 ±0「コードレス電話」
 プライメイゼロ(株)

アミューズメント事業

売上高 64億9千3百万円 (前年同期比32.6%減)
 営業利益 4億3千6百万円 (前年同期比12.7%増)
 アミューズメント事業では前年同期末に(株)タカラアミューズメントの事業を譲渡したことにより、(株)アトラスの業績のみとなりました。(株)アトラスの業務用ゲーム関連事業はプリクラに続く第2の柱を発売し好評を得、アミューズメント施設関連事業では埼玉県三郷市の大型複合商業施設内に大型店舗をオープンさせ、既存店での顧客サービスの充実を図った結果、売上高は減少したものの、営業利益は前年同期より増加しました。



「ゲームパニック三郷」(埼玉県三郷市)(株)アトラス

その他の事業

売上高 49億7百万円 (前年同期比6.8%増)
 営業損失 1億8千6百万円 (前年同期比6.5%営業損失の減)
 その他の事業ではホームセンター向け家庭用品に新たに開始した木材の販売が加わり、またレジャー用品の売上が好調に推移しました。カー用品事業は自動車用のドレスアップカーテンの売上が好調に推移しましたが、主力のウィンドーフィルム及び自動車用アクセサリが総じて計画を下回りました。

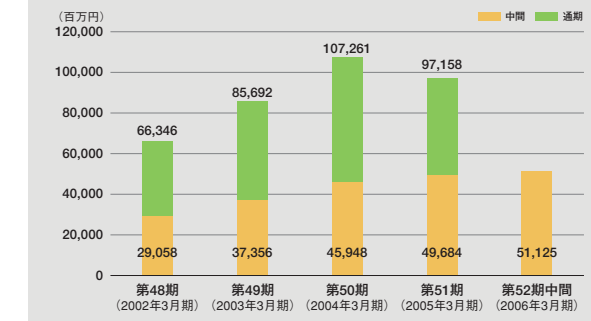


カーアクセサリ用品(株)ワコー

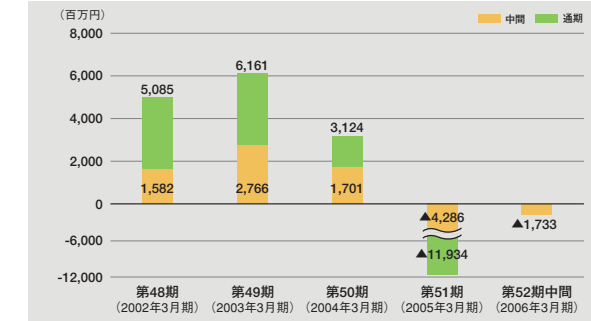


連結主要財務データ

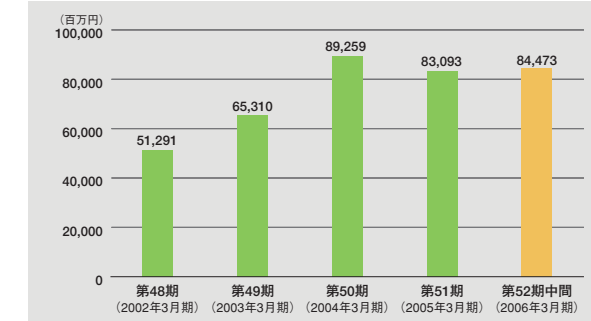
売上高



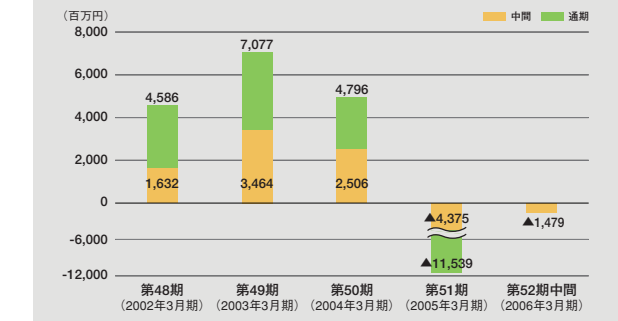
経常利益



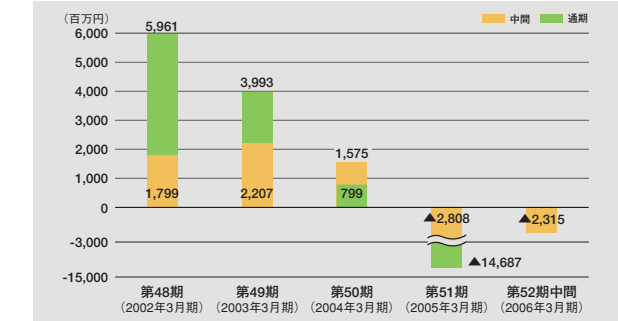
総資産



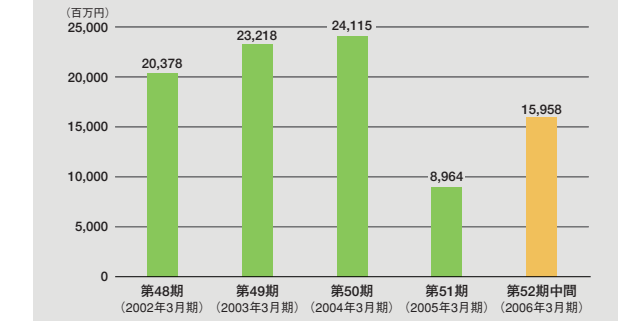
営業利益



当期(中間)純利益



株主資本



連結財務諸表

貸借対照表 (要旨)

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 (2005年9月30日現在)	前中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
●資産の部			
I 流動資産	51,997	55,891	48,677
現金及び預金	18,086	11,188	10,653
受取手形及び売掛金	15,148	17,301	17,518
たな卸資産	13,996	16,131	15,161
その他	4,766	11,269	5,344
II 固定資産	32,475	31,652	34,416
有形固定資産	14,945	16,401	16,214
建物及び構築物	6,831	6,306	6,346
工具器具備品	3,176	4,498	4,150
土地	4,357	4,513	4,822
その他	579	1,082	895
無形固定資産	4,029	1,580	2,779
投資その他の資産	13,500	13,670	15,421
III 繰延資産	—	7	—
資産合計	84,473	87,552	83,093

【貸借対照表】

資産につきましては、受取手形及び売掛金ならびにたな卸資産が減少し現金及び預金が増加したことなどから、前連結会計年度と比べ13億8千万円増加いたしました。負債につきましては、短期借入金の減少、未払法人税等の減少などにより、前連結会計年度と比べ43億5千9百万円減少いたしました。資本につきましては、中間純損失を計上いたしましたが、当社において第三者割当増資を行ったため、前連結会計年度と比べ69億9千4百万円の増加となりました。

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 (2005年9月30日現在)	前中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
●負債の部			
I 流動負債	50,467	42,394	52,352
支払手形及び買掛金	11,287	12,024	11,449
短期借入金	21,691	20,667	23,419
1年内償還予定の社債	7,060	—	7,160
その他	10,429	9,701	10,323
II 固定負債	9,586	15,440	12,060
社債	480	7,490	460
長期借入金	4,528	1,973	4,817
その他	4,578	5,977	6,782
負債合計	60,054	57,834	64,413
●少数株主持分			
少数株主持分	8,459	9,831	9,715
●資本の部			
資本金	22,976	18,121	18,121
資本剰余金	4,854	5,595	5,595
利益剰余金	△10,207	△1,315	△13,447
土地再評価差額金	△1,199	△1,494	△1,238
その他有価証券評価差額金	579	8	1,043
為替換算調整勘定	△234	△250	△297
自己株式	△811	△777	△812
資本合計	15,958	19,886	8,964
負債、少数株主持分及び資本合計	84,473	87,552	83,093

損益計算書 (要旨)

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 自2005年4月1日 至2005年9月30日	前中間期 自2004年4月1日 至2004年9月30日	前期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
売上高	51,125	49,684	97,158
売上原価	39,005	37,835	76,809
売上総利益	12,119	11,848	20,348
販売費及び一般管理費	13,598	16,223	31,888
営業損失(△)	△1,479	△4,375	△11,539
営業外収益	396	576	649
営業外費用	649	487	1,044
経常損失(△)	△1,733	△4,286	△11,934
特別利益	1,740	5,556	6,040
特別損失	2,936	2,089	4,786
税金等調整前中間(当期)純損失(△)	△2,928	△819	△10,680
法人税、住民税及び事業税	124	1,087	996
法人税等調整額	△39	1,051	3,317
少数株主損失(△)	△698	△150	△307
中間(当期)純損失(△)	△2,315	△2,808	△14,687

キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 自2005年4月1日 至2005年9月30日	前中間期 自2004年4月1日 至2004年9月30日	前期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
I 営業活動による キャッシュ・フロー	△1,796	△3,270	△6,072
II 投資活動による キャッシュ・フロー	△3,558	△2,486	736
III 財務活動による キャッシュ・フロー	12,355	780	△26
IV 現金及び現金同等物に 係る換算差額	45	219	146
V 現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額	7,045	△4,757	△5,214
VI 新規連結に伴う現金及 び現金同等物の増加額	—	59	59
VII 現金及び現金同等物の 期首残高	10,459	15,614	15,614
VIII 現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	17,504	10,916	10,459

剰余金計算書(要旨)

科目	(単位：百万円)		
	当中間期 自2005年4月1日 至2005年9月30日	前中間期 自2004年4月1日 至2004年9月30日	前期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
●資本剰余金の部			
I 資本剰余金期首残高	5,595	5,595	5,595
II 資本剰余金増加高 (増資による新株式の発行)	4,854	—	—
III 資本剰余金減少高 (欠損填補のための取崩高)	5,595	—	—
IV 資本剰余金中間期末(期末)残高	4,854	5,595	5,595
●利益剰余金の部			
I 利益剰余金期首残高	△13,447	1,907	1,907
II 利益剰余金増加高			
1. 資本剰余金取崩による増加高	5,595	—	—
2. 子会社の減少に伴う増加額	—	21	25
III 利益剰余金減少高			
1. 中間(当期)純損失	2,315	2,808	14,687
2. 配当金	—	436	436
3. 土地再評価差額金取崩に伴う減少高	39	—	256
IV 利益剰余金中間期末(期末)残高	△10,207	△1,315	△13,447

【損益計算書】

当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高は新たにトイズユニオン(株)が加わり、前年同期比2.9%増の511億2千5百万円、経常損失は17億3千3百万円(前年同期は経常損失42億8千6百万円)となり、合併費用、子会社でのたな卸資産評価損等の特別損失を計上したことにより、中間純損失は23億1千5百万円(前年同期は中間純損失28億8百万円)となりました。

【キャッシュ・フロー計算書】

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度と比べ70億4千5百万円増加し175億4百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権が減少したものの、税金等調整前中間純損失に加え法人税等の支払が増えたことにより、17億9千6百万円の支出となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、新たに連結子会社に加わりました(株)竜の子プロダクションの株式購入、当社本店のビル改築、金型・ソフトウェアなどの固定資産の取得などにより35億5千8百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、当社の第三者割当増資、貸付有価証券の受入担保金による収入などにより123億5千5百万円の収入となりました。

単体財務諸表

貸借対照表(要旨)

科目	(単位:百万円)		
	当中間期 (2005年9月30日現在)	前中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
●資産の部			
I 流動資産	26,043	21,085	17,632
現金及び預金	10,775	2,260	2,906
売掛金	6,407	8,011	4,383
たな卸資産	3,499	5,403	4,532
その他	5,361	5,409	5,810
II 固定資産	26,637	27,239	25,790
有形固定資産	6,789	7,995	7,455
建物	3,145	3,018	2,527
工具器具備品	1,393	2,337	2,338
土地	2,135	2,458	2,200
その他	116	180	387
無形固定資産	2,182	909	2,183
投資その他の資産	17,665	18,334	16,151
III 繰延資産	—	7	—
資産合計	52,680	48,332	43,423
●負債の部			
I 流動負債	33,327	17,089	32,082
買掛金	2,188	2,431	2,125
短期借入金	16,755	9,910	16,233
1年内償還予定の社債	7,000	—	7,000
その他	7,383	4,747	6,722
II 固定負債	2,354	8,673	2,615
社債	—	7,000	—
長期借入金	500	—	500
その他	1,854	1,673	2,115
負債合計	35,682	25,762	34,698
●資本の部			
I 資本金	22,976	18,121	18,121
II 資本剰余金	4,854	5,595	5,595
III 利益剰余金	△9,964	386	△14,503
利益準備金	—	13	13
任意積立金	—	5,500	5,500
中間(当期)未処理損失(△)	△9,964	△5,126	△20,016
IV 土地再評価差額金	△1,199	△1,494	△1,238
V その他有価証券評価差額金	415	45	835
VI 自己株式	△85	△84	△85
資本合計	16,998	22,569	8,725
負債及び資本合計	52,680	48,332	43,423

損益計算書(要旨)

科目	(単位:百万円)		
	当中間期 自2005年4月1日 至2005年9月30日	前中間期 自2004年4月1日 至2004年9月30日	前期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
売上高	20,810	23,312	45,606
売上原価	15,180	18,513	39,128
売上総利益	5,629	4,798	6,478
販売費及び一般管理費	6,335	8,429	16,888
営業損失(△)	△705	△3,631	△10,410
営業外収益	407	1,025	1,308
営業外費用	186	108	323
経常損失(△)	△484	△2,714	△9,425
特別利益	1,027	1,568	1,595
特別損失	1,560	3,563	9,459
税引前中間(当期)純損失(△)	△1,017	△4,708	△17,289
法人税還付額	△3	—	—
法人税、住民税及び事業税	2	7	10
法人税等調整額	—	1,037	3,085
中間(当期)純損失(△)	△1,017	△5,752	△20,385
前期繰越利益又は損失(△)	△8,907	625	625
土地再評価差額金取崩額	39	—	256
中間(当期)未処理損失(△)	△9,964	△5,126	△20,016

トピックス



【感謝の気持ち】

これまで50年間、タカラは皆様から多くの温かいご支援を頂戴し、「玩具を通してたくさんの人々の心に夢、楽しみ、生きがいを提供する」という企業活動を続けてくることができました。

心から御礼申し上げます。

以下は、株主様のご意見をきっかけに誕生した、タカラの感謝の気持ちを込めた50周年の記念品です。

2005年7月15日現在100株以上ご所有の株主様に贈呈させていただく予定です。

50周年
記念品

◎リカちゃん (1,000株以上ご所有)

内掛けを身に纏った花嫁姿の「リカちゃん」人形
1967年に誕生し、タカラの代表的キャラクターである「リカちゃん」が初めて白無垢の花嫁衣装を纏った特別限定生産の記念品です。これまで長い間タカラを愛し、育ててくださった多くの皆様への心からの感謝の気持ちと、新生「株式会社タカラトミー」誕生に向けての希望を託した愛らしい「リカちゃん」です。



◎ウォーキービット (100株以上1,000株未満ご所有)

小さな亀ロボット「Walkiebitts(ウォーキービット)」
2005年6月に発売以来大好評いただいている、小さな亀ロボット「ウォーキービット」の特別バージョン「寿ウォーキービット」を限定生産でご用意致しました。金色のカラーリングに、「寿」の文字をあしらっております。縁起の良いものとされる亀に、50周年の喜びと、これまで長い間タカラを愛し、育ててくださった多くの皆様への心からの感謝の気持ちと、新生「株式会社タカラトミー」誕生に向けての希望を託しております。



株式の状況

(2005年9月30日現在)

■株式の状況

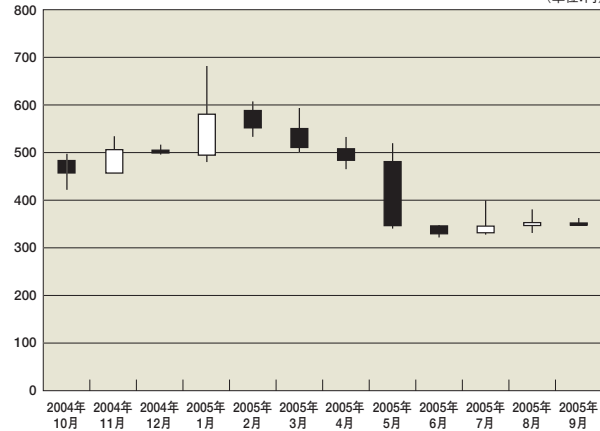
会社が発行する株式の総数360,000,000株
 発行済株式総数152,704,244株
 株主数31,711名

■大株主

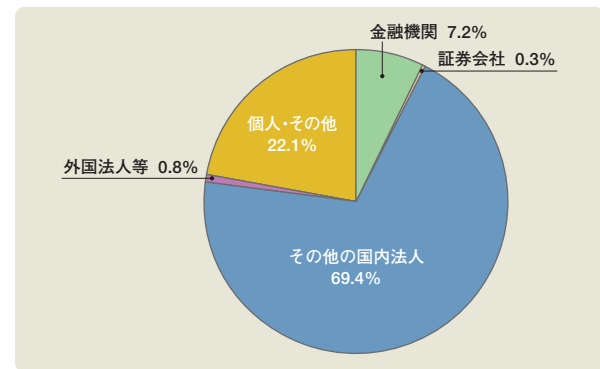
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	議決権比率(%)
株式会社インデックス	52,691	34.5
有限会社ティーツーファンド	29,655	19.4
株式会社ティーエイケイ	10,866	7.1
MAC Small Cap 投資事業組合	6,549	4.2
上田八木短資株式会社	3,000	1.9
財団法人日本玩具文化財団	2,200	1.4
株式会社みずほ銀行	1,889	1.2
有限会社ドリームモーターズ	1,580	1.0
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,233	0.8
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,085	0.7

■株価の推移

(単位:円)



■所有者別株式分布



会社概要・株主メモ

■会社概要 (2005年9月30日現在)

- 本社所在地 〒125-8503 東京都葛飾区青戸4-19-16
TEL 03-3603-2131 (代表)
- 設立年月日 1955年9月17日
- 資本金 229億7,657万1,096円
- 従業員数 464名
- 役員

代表取締役会長	佐藤 慶太
代表取締役執行役員社長	奥出 信行
取締役常務執行役員	眞下 修
取締役常務執行役員	日比 靖浩
取締役	落合 正美
取締役	千田 利史
取締役	堀 篤
常勤監査役	野沢 武一
常勤監査役	竹内 昭司
監査役	水戸 重之
監査役	野上 順
常務執行役員	長澤 隆之
執行役員	綿引 民雄
執行役員	田中 紘一郎
執行役員	久保 亮三
執行役員	細屋 憲雄
執行役員	須佐 謙一
執行役員	小林 弘志
執行役員	渡辺 洋子
執行役員	黒木 健一
執行役員	中野 哲

■株主メモ

- 決算期 毎年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 3月31日
- 名義書換代理人 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
- 同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (証券代行事務センター) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (03) 3323-7111 (代表)
- 郵便物送付先 郵送の場合は、上記の事務取扱所あてに直送ください。
- 同取次所 (2005年12月20日以降) 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- 公告方法 電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
- ホームページアドレス <http://www.takaratoys.co.jp/>
- 上場取引所 東京証券取引所